

—関連施設だより—

「ウイズ・コロナ」の時代における地域中核病院としての取り組み

福島 正人

本庄総合病院

Health Care Administration In the 'With COVID-19 Era' As the Regional Core Hospital

Masato Fukushima

Honjo General Hospital

本庄総合病院（以下「当院」）は、群馬県との県境である埼玉県本庄市に位置し、本庄市及び隣接する児玉郡（2020年4月現在・人口約13.3万人）における中核の役割を果たしています。病床数は287床で、急性期135床、感染症2床、地域包括ケア48床、医療療養102床で構成され、急性期医療はもちろんのこと、回復期、慢性期までの入院医療を同一施設において提供しております。診療科目は外科・消化器科、内科、小児科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科などで構成されています。

埼玉県は47都道府県中、人口当たりの医師数が最も少なく、当院が属する埼玉県北部医療圏は県内でも特に少ない地域です。上越・北陸新幹線の本庄早稲田駅や関越自動車道・本庄児玉IC.からも程近く都心部からもアクセスが良好で、常勤医師は埼玉県のみならず、東京都、群馬県、千葉県、神奈川県に居住しています。日本医科大学における多くの教室様のご厚意でご支援を頂戴し、地域の患者様を温かくご高診賜り、また高度急性期医療や専門医療が必要な方におかれましては、日本医科大学附属病院にて手厚いご加療を頂戴しています。診療支援、医療連携におきまして、格別のご厚誼ご高配を賜り改めまして心より御礼申し上げます。

当院は「地域住民の健康と幸福を守り、地域医療の拠点となる」を理念とし、新型コロナウイルス感染症拡大期においても、適切な感染予防策を行い外来・入院診療を提供し、医療を通じて地域社会に貢献が出来ますよう努めております。第2種感染症指定医療機関として感染症病床を有し、県から要請された感染症患者様も受け入れる体制を構築しております。発熱、風邪症状などを有する患者様は、診察場所が病院建物と分離され、通常の外来患者様とは導線が異なる診察室にご案内させていただき、必要に応じて、新型コロナウイルス検査を行っているなど、感染拡大前の早い時期より、行政機関と協力し、感染症医療にも注力しております。感染症対策を適切に行うことによって、非感染症医療を強化して参りたいと存じます。

新型コロナウイルス感染症は、全国の医療機関において、「院内感染・クラスター発生」、「医療従事者感染」、「受診控えによる外来・入院数減少」、「感染症対策による費用増」、「収益性や財務上の安全性の低下」、「医療従事者における心身共の健康障害や離職」など、甚大な負の影響を及ぼしました。新型コロナウイルス感染症流行以前、いわゆるピフォア・コロナの時代においても、全国の一般病院の損益差額（≒医業利益率）は-2.1%であり¹⁾、既に相当苦しい財務状況でした。新型コロナウイルス感染症拡大下の2020年・4月、5月、6月においては、医業利益率はそれぞれ-9.4%、-8.4%、-12.1%まで落ち込んだことが報告され²⁾、持続可能性に懸念が生じる水準まで低下しました。当院においても、緊急事態宣言発令中、待機的な検査・治療が見送られたこと、感染症指定医療機関であるがゆえにさらに受診控えが顕著になったこと、他の疾患を疑い入院となった患者様において感染が判明する事象が発生し、当該病棟の新規入院の受け入れ停止を要する期間が生じたことなどによって、収入が著しく減少しました。また、感染症対策の諸費用増などによって、損益状況は深刻化しました。財務的な損失はございましたが、未知の感染症に対して自らの危険があるなかで、医療従事者の皆様に感染症対応を丸となって取り組んでいただ

連絡先：福島正人 〒367-0031 埼玉県本庄市北堀1780 医療法人本庄福島病院 本庄総合病院 理事長

URL：www.honjo-hp.jp

E-mail：fukushimam@kzd.biglobe.ne.jp

Journal website (https://www.nms.ac.jp/sh/jmanms)

いたこと、保健所、県他行政機関、周辺医療機関より温かいご協力を頂戴しましたこと、日本医科大学をはじめとする教育機関より大変心強い診療支援を頂戴しましたこと、何より地域住民の皆様に感謝や激励のお言葉を頂戴しましたことは、貴重なレガシーとなりました。

「感染症対策と経済活動の両立」、「誰もが新型コロナウイルス感染症を有している可能性を念頭に対応すること」、「新しい生活様式の実践」、「ピフォア・コロナにおける固定観念を払拭し、発想の転換ができる変化に強い組織作り」などが求められる、いわゆる「ウィズ・コロナ」の時代に入りました。

そのような厳しい経営環境下におきましても、私心を排し、医療と社会のために尽くす「克己殉公」の精神で、地域の中核病院として、良質で持続可能な医療が提供できるよう一層努力して参りたいと存じます。今後とも日本医科大学様、関係各位の皆様のみますますのご指導と温かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

参考文献

1. 中央社会保険医療協議会：第22回医療経済実態調査（医療機関等調査）報告—令和元年実施—；2019；II. 調査の結果機能別集計等；pp18-29.
https://www.mhlw.go.jp/bunya/iryohoken/database/zenpan/jittaityousa/dl/22_houkoku_iryokikan.pdf
2. 一般社団法人日本病院会，公益社団法人全日本病院協会，一般社団法人日本医療法人協会：新型コロナウイルス感染拡大による病院経営状況の調査（2020年度第1四半期—結果報告—）；2020；コロナ患者受入状況における経営指標の比較（有効回答全病院）；p11.
https://ajhc.or.jp/siryu/20200806_covid19ank.pdf

（受付日 2020年10月7日）